

(様式1-2)(用紙寸法は、日本工業規格A列4とする。)

(※本様式1-2については、別紙を添付することも可能とするが、別紙も含め、全体で6ページ以内に収めること。また、別紙を添付する場合は、A4サイズで作成すること。)

事業計画書

1. 事業の題名

「若い世代が輝く中山間地域活性化事業」

2. 業務の委託期間

委託を受けた日から平成26年 3月 20日まで

3. 選択テーマ

※単独テーマに該当する場合には、いずれか一つに○を、複数テーマに該当する場合には、主なテーマに◎、関連するテーマに○を付ける。

テーマ	該当の有無
若者の自立・社会参画支援	
地域の防災拠点形成支援	
地域人材による家庭支援	
地域振興支援	○
その他地域の教育的資源を活用した地域課題解決支援	

4. 支援プログラム実施組織の構成

①組織の全体構成員

氏名	所属・役職等	備考欄
	共同推進課(市民活動センター)	
	商工労政課	
	人権男女協働推進課	
	しゃもじんキューブ	
	佐伯高校活性化地域協議会	
	佐伯地域・吉和地域、市民センター及び支所	
	株式会社HSプラス	
	佐伯地区 小中高等学校PTA	

②事業推進担当社会教育主事(役職が社会教育主事でない場合は事業の中心となる社会教育関係職員)

氏名	所属・役職等	備考欄
菅原律子	廿日市市役所 地域政策課	

5. 取組みの趣旨・目的

(地域の現状、解決すべき地域の課題、それに対する解決の取組概要等を記載すること。)

(地域の現状)

少子高齢化、市民ニーズや地域課題の多様化に伴い、「公共」の新たな担い手として、市民の役割が高まっている。今後、少子高齢化などの社会状況が変化するなか、行政として多様化する市民ニーズのすべてに対応することは困難になっている。行政、市民、企業や大学、地域コミュニティなどがそれぞれの持つ力を活かしながら、協力し合い連携して、どちらかだけでは解決が難しい公共的な課題に取り組みまちづくりをすすめていかなければならない。現在、廿日市市においては、28 地区あるコミュニティ団体がそれぞれにおいて、年間を通じて主催行事などを行っており、活発に活動している。しかしその担い手は、おおむね 60 歳代から 70 歳代が中心となっており、コミュニティ活動を継続して行っていくためには、次世代の育成が重要な課題となっている。

本市においては、平成 24 年「協働によるまちづくり基本条例」が制定され、「地域自治を推進し、つながりを大切にした暮らしやすい豊かな地域社会の実現」を目指している。「協働によるまちづくり基本条例」の第 11 条第 1 項には、「市民による人材の育成及び市による支援は、次代のまちづくりを担う子ども、若者等の世代に対しても行われるよう配慮することとしている。(ここでいう「子ども」は小学生までを、「若者」は中学生から 30 歳未満までをとらえている。また、子どもや若者のほか、おおむね 30 歳代から 50 歳代までをいわゆる中堅世代も、これからまちづくりを担う人材としてこの規定の対象にしている。)

本取組においては、高校生・大学生から子育て中の親世代、子育てを終えた親世代、またそれらを支援するシニア(60 歳代から 70 歳代)を対象にした事業を実施する。

(中山間地域の現状)

廿日市市のなかでも、中山間地域(佐伯・吉和地域)においては、少子高齢化が著しく進行している。特に、浅原地区、玖島地区において、保育園の休園・小学校の統廃合が決定されており、また地域に唯一ある高校の存続危機のなかで、地域の存続に向けた活性化を検討していくことが緊急の課題であり、そのために行政は、積極的に公共的な課題に意識を向けて取組む若い世代を育成し、支援していく必要がある。

(若い世代の女性の起業支援の必要性)

一方で吉和地域、玖島地区においては、「吉和お散歩ギャラリー」や「くじまの森」など若い女性のリーダーによる地域おこしのイベントが効果を挙げている現状がある。これらの活動を継続的・発展的に行っていくことが、今後の地域活性化につながると考えられる。そのためにも行政は、佐伯・吉和地区に住む若い女性の経済的な自立を支援していく必要がある。他市町で活躍されている事例を紹介したり、本市において企業して成功を収めている方にセミナーの講師を依頼することにより、起業することを身近に感じてもらえるような事業を実施し、若い世代の女性(未婚で起業を目指す女性から、子育て中の女性)の社会参画や就労につなげることで、持続可能な地域づくりの実現が期待できる。

①地元女性企業家による、女性の起業セミナーの実施

(佐伯高校の活性化の必要性)

地域で唯一高校である、佐伯高校において、「佐伯高校活性化地域協議会」が平成 26 年度に設置され、佐伯高校の存続は、地域の活性化において重要な課題となっている。しかし子

育て中の親世代が当事者として、活性化を目指す具体的な動きは見受けられない。家庭を持つ若い世代は、仕事と子育てで忙しいため、時間的な余裕が少ない。しかし、忙しい中でもPTA活動に参加した経験を基に、その後地域のコミュニティ活動や地域づくりボランティアに関わるようになる人も地域には見受けられる。「佐伯高校活性化協議会」だけでなく、高校のPTAさらには、佐伯・吉和地域の小中学校PTAを巻き込んで、中山間地域の高校の活性化に成功した他地域の事例に関する講演会を実施することにより、子育て世代にも地域課題に目を向けるきっかけと、つながりのなかで地域課題を解決するための土壌を作る。

②-1 PTAを対象とした、高校活性化のための講演会の開催

(高校生への地域づくりへの意識付け)

さらに若い世代である高校生を対象とした、高校活性化のためのワークショップを開催し、地域課題に目を向け、当事者として関わる体験の場を提供し、地域づくりに意識のある若者を育成する。また、「大学・地域協働による地域課題の解決支援事業」を実施している広島修道大学と連携し、ワークショップにおいて大学生を指導者・リーダー役とする。

②-2 高校生を対象とした高校活性化のためのワークショップの開催

(若い世代の活動を支えるシニア世代の育成)

60歳代から70歳代地域で地道にコミュニティ活動を継続して行っている団体及び個人が、若い世代の活躍や活動に対し理解を示し、協力する体制を整えることは、地域の活性化を加速させるための推進力として期待できる。地域が魅力と活力を保ち続けられるよう、世代を超えて地域の将来を一緒になって支える人を育成することを目的として、世代間のギャップを埋めるための講座を60歳代から70歳代の人を対象として開催する。

③ 地域の世話役養成塾の開催

6. 支援プログラムの具体的実施内容及び実施方法等

①女性起業セミナー研修の開催(6回程度、10名程度の参加者を想定)

これから起業を目指す若い女性を対象にした起業セミナーを実施する。地域の中で、ビジネスを実現している人を講師に迎え、これから、地域のなかでビジネスを成功させたい若い世代の女性を対象とした起業セミナーを実施する。実際に活動しているリーダーが仲間を増やし、地域に拠点を置きながらビジネスとして成り立たせるとともに、地域にそれらの拠点を応援する土壌をつくり、その魅力を発信することにより、さらに地域外の人をも巻き込むことも目的とする。

- 1 起業の先輩の話
- 2 情報発信講座
- 3 資金の話
- 4 仲間づくりの話
- 5 同規模他自治体の事例視察
- 6 情報交換会の開催

③佐伯高校活性化を目的とした中山間地域の高校活性化先進事例講演会の開催

PTA組織と連携することにより、子育て中の若い世代(20歳代から40歳代)が親として身近な問題である佐伯高校の存続について、当事者意識を持ち積極的に関わることを目的と

して、高校の活性化の必要性と活性化に成功した先進事例を知ってもらうための講演会を開催する。

- 1 先進事例の講演会
- 2 みんなで佐伯高校活性化について話し合う

③高校生を対象とした地域活性化のためのワークショップの開催。

修道大学の学生をリーダーとして、高校生自身が考える高校活性化案を話し合い、その発表の場を設けることにより、次代を担う高校生に地域づくりの当事者としての意識づけを図る。

- 1 先進事例の講演会
- 2 みんなで佐伯高校の活性化について話し合う
- 3 考えた案を地域の人に発表する

④地域の世話役養成の開催（5回程度、30名程度の参加者を想定）

世代間のギャップを埋めるための講座を60歳代から70歳代の人を中心に開催する。また、地域の活性化には、人口の増加が欠かすことのできない課題であるが、移住希望者が安心して移住を決断し、地域に溶け込んだ生活ができるようになるためには、移住者の良き相談役となることが期待される世代でもあるため、求められる役割や、先進的な取り組みに関する知識の習得を目的とした講座を開催する。

- 1 世代間のギャップを埋めるための講座
- 2 地域の世話役に期待する役割についての講座
- 3 地域定住コンシェルジュの地域活動事例の発表
- 4 地域で活躍している若い世代（移住者含む）の話を聞こう
- 5 若い世代との交流会

7. 支援プログラムの実施により得られることが見込まれる成果・効果

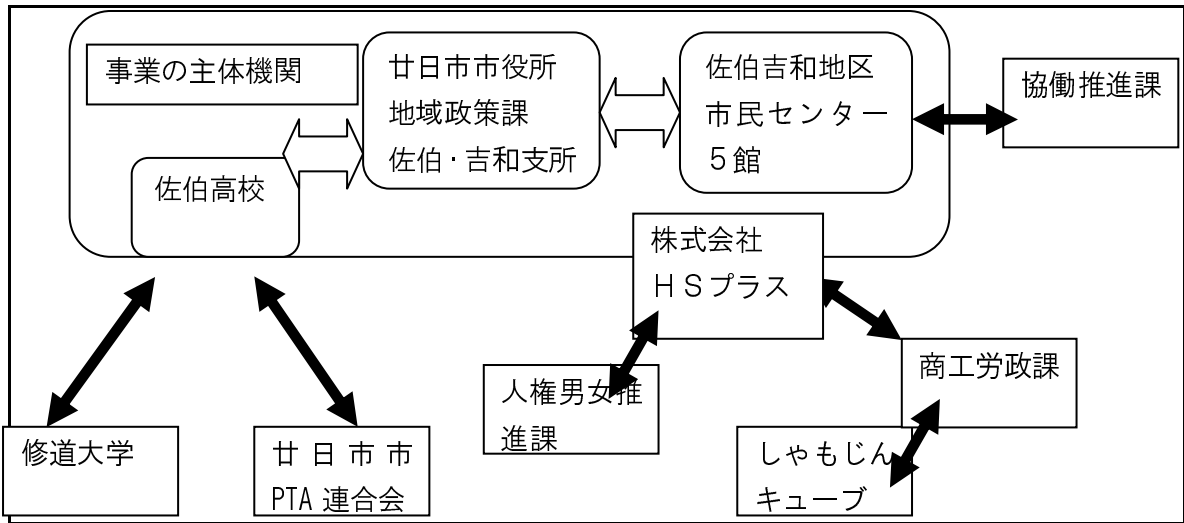
①現在先進的に活躍している、またこれから活躍したい女性をターゲットに絞り、育成することにより、地域に活力を生み出し、後続する地域づくりに関わるリーダーを及び、サポーターを育成する。そのための先進モデルをつくる。

②地域行事には、お客さんの意識がある若い世代にも当事者意識をもってもらい、自分たちの地域をより住みやすい地域を自分たちが作っていく意識を増やす。

③これから、高校・大学をでて就職する前の若者に、地域での役割や居場所を作ることで、地域で暮らし地域を住みやすくすることに関わりを持つ意識を育てる。

④世代を超えて、地域づくりを連携して行うことにより、新たな地域資源を作り出す。

8. 事業の実施体制（再委託先まで含めた事業実施体制について図示すること。）



9. 支援プログラム実施スケジュール

	4月	5月	6月	7月	8月	9月	10月	11月	12月	1月	2月	3月
①		★		★		★		★		★		
②					★	★						
③					★	★						
④			★		★		★		★		★	

10. 支援プログラムの評価にかかる項目

（評価体制、評価手法等を本プログラムの成果指標も含め、できるだけ具体的に記載すること。）

<p>実際に起業した人の数（成果指標＝2人）</p> <p>女性起業家のサポーターとなった人の数（成果指標＝20人）</p> <p>女性起業セミナーに参加した人の数（成果指標＝20人）</p> <p>地域の世話役養成塾に参加した人の数（成果指標＝40人）</p> <p>高校活性化先進事例講演会に参加した人の数（成果指標＝80人）</p> <p>高校活性化のためになされた提言の数（成果指標＝5件）</p> <p>その他、数値化できないような成果を関係者への聴き取りや事業参加者・移住者へのアンケート事業実施に関わる団体と構成メンバーへの聴き取りなどで把握する。</p>

【以下は、複数年度の取組み実施を予定している場合に作成すること】

11. 初年度の実施内容、成果を踏まえた次年度以降の支援プログラム実施内容及び実施方法等

①集まった女性リーダーをサポートする、サポーター養成講座を開催する。

②PTA だけでなくコミュニティ関係者及び高校生と一緒に佐伯高校の活性化を考える円卓会議を開催し、提言を実現するため、高校生及びPTAを対象としたワークショップを市民センターで実施する。

③女性リーダーたちが実施する事業やイベントの紹介を地域の年齢の高い人を対象にした発表会を開催する。